2027年3月期 第2四半期(中間期)決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年11月11日

上場会社名　株式会社湖池屋　　上場取引所　東
コード番号　2226　URL https://koike-ya.com/
代表者　(役職名) 代表取締役会長　(氏名) 小池　孝
問合せ先責任者　(役職名) 取締役　経営管理本部長　(氏名) 大島　広昭　TEL 03-3979-2116

半期報告書提出予定日　2026年11月12日
配当支払開始予定日　―
決算補足説明資料作成の有無　：　有
決算説明会開催の有無　：　無

(百万円未満切捨て)

1. 2027年3月期第2四半期(中間期)の連結業績(2026年4月1日～2026年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年3月期中間期	31,244	4.3	1,698	17.3	1,622	13.7	911	25.9
2026年3月期中間期	29,962	3.7	1,447	△30.2	1,426	△30.7	724	△34.6

(注) 包括利益　2027年3月期中間期　1,020百万円　(18.6%)　2026年3月期中間期　860百万円　(△27.2%)

	1株当たり中間純利益	潜在株式調整後1株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2027年3月期中間期	85.45	―
2026年3月期中間期	67.88	―

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年3月期中間期	48,644	21,916	44.4
2026年3月期	47,363	21,626	45.0

(参考) 自己資本　2027年3月期中間期　21,616百万円　2026年3月期　21,290百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	―	0.00	―	55.00	55.00
2027年3月期	―	0.00			
2027年3月期(予想)			―	55.00	55.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

3. 2027年 3月期の連結業績予想(2026年 4月 1日～2027年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	65,400	6.9	3,900	0.8	3,800	0.7	2,600	0.2	243.72

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 ： 無

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 ： 有

(注) 詳細は、添付資料P．8「2．中間連結財務諸表及び主な注記 (3) 中間連結財務諸表に関する注記事項 (中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 ： 無
② ①以外の会計方針の変更 ： 無
③ 会計上の見積りの変更 ： 無
④ 修正再表示 ： 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2027年3月期中間期	10,670,000 株	2026年3月期	10,670,000 株
② 期末自己株式数	2027年3月期中間期	2,222 株	2026年3月期	2,222 株
③ 期中平均株式数 (中間期)	2027年3月期中間期	10,667,778 株	2026年3月期中間期	10,667,778 株

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P．3「1．経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法)

決算補足説明資料は2026年11月12日 (木) に当社ウェブサイトに掲載いたします。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 …… 2
（１）当中間期の経営成績の概況 …… 2
（２）当中間期の財政状態の概況 …… 3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．中間連結財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）中間連結貸借対照表 …… 4
（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 …… 6
中間連結損益計算書 …… 6
中間連結包括利益計算書 …… 7
（３）中間連結財務諸表に関する注記事項 …… 8
（中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記） …… 8
（セグメント情報等の注記） …… 8
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 9
（継続企業の前提に関する注記） …… 9

１．経営成績等の概況

（１）当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間は、国内においては、高付加価値３ブランド（「湖池屋プライドポテト」、「ピュアポテト」、「湖池屋ストロング」）で実施した３か月連続のフルリニューアル、ロングセラーブランドで実施した一連のプロモーション施策等が成功し、事業展開に勢いをもたらしています。また、新領域・新市場を創出する新商品の発売等、チャレンジングな商品施策が成果を収め、ブランドのプレゼンス向上に貢献しました。

一方で、中東情勢の緊迫化等に伴う想定以上の原材料費・物流費等のコスト増加が利益を圧迫しましたが、製造工程の見直しによる効率化や馬鈴薯歩留の改善、全社を挙げたコスト削減を迅速かつ着実に実行することで、増収増益となりました。

海外においても、各国においてコスト増加の影響を受けましたが、新商品の投入やチャネル拡大等の積極的な施策とそれらを支える体制基盤の整備が奏功し、増収増益となりました。

売上高は、31,244百万円（前年同期比4.3%増）となりました。利益につきましては、営業利益1,698百万円（前年同期比17.3%増）、経常利益1,622百万円（前年同期比13.7%増）、親会社株主に帰属する中間純利益911百万円（前年同期比25.9%増）となりました。

セグメント別の業績は以下のとおりです。

＜国内＞

2027年３月期は、「高付加価値ブランドの継続拡販」、「継続的な新機軸商品開発」及び「馬鈴薯の安定調達・品質改善」を最重要課題と捉え、事業展開を進めております。

商品戦略におきましては、高付加価値ブランドである「湖池屋プライドポテト」、「ピュアポテト」、「湖池屋ストロング」において３か月連続のフルリニューアルを実施し、市場での存在感を高めました。「湖池屋プライドポテト」では、国産馬鈴薯100%の旨みをより訴求できる新製法を採用し、かつ、「ご褒美感」を強く打ちだすことで差別化を狙った「情熱コンソメ」の新発売で、新規需要の取り込みに成功しました。「ピュアポテト」では、国産馬鈴薯100%の旨み訴求を継続しつつ、新フレーバー「We❤ケチャップ」の投入により親しみやすいブランドイメージを醸成し、若年層をはじめとする新規顧客層を開拓いたしました。「湖池屋ストロング」では、「濃厚」さと「刺激」によるストレス発散をコンセプトに刷新を図り、そのコンセプトを体現した新フレーバー「辛レモン」を投入することで、若年層をはじめとする新規顧客層を開拓いたしました。

ロングセラーブランドにおきましても、「ムーチョ」ブランドで「ゴジラ」コラボを実施し、新商品及び期間限定パッケージによる新たな顧客層との接点を創出、ブランド全体の売上を拡大しました。また、「ポリンキー」においては、４月にリニューアルを実施し、SNSを活用したプロモーションを展開したことで、販売が好調に推移しました。「スコーン」においては、人気男性アイドルを起用した新CMの放映効果もあり、前年同期比で大きく売上を伸ばしました。

新領域・新市場の創造におきましては、拡大する中食市場に着目し、「真空揚げたて製法」を採用した新感覚スティックポテト「金のポテト」を開発し、９月より首都圏（１都６県）限定で発売を開始し好調に推移しています。

コスト面におきましては、馬鈴薯の産地から工場に至るまでのモニタリング体制強化及び馬鈴薯貯蔵庫内環境の抜本的見直しにより、一定の品質改善に成功しております。なお、中東情勢の影響に伴うコスト増加の影響は引き続き大きいものの、各種コスト削減には全社を挙げて最大限努めております。

以上のとおり、売上の拡大と利益創出の一連の取り組みが奏功し、国内の売上高は27,706百万円（前年同期比2.9%増）となり、セグメント利益は1,332百万円（前年同期比1.5%増）となりました。

＜海外＞

海外事業においては、コスト上昇への機動的な対応を進めつつ各国で売上拡大に取り組み、堅調に推移しております。

台湾事業では、中東情勢悪化の影響による資材等の価格高騰に加え、競合メーカーによる新商品や販促により競争環境が厳しくなる中、利益確保に重点をおいております。ベトナム事業では、特にMTチャネルが伸長しており、大袋商品各種やコーン商品の価格改定による収益改善にも取り組んでおります。タイ事業では、既存大手チャネルにおけるカラムーチョの好調な実績に加え、新規取引先の開拓や新商品投入で売上を拡大しております。アメリカ事業では、現地法人主導の販売活動が本格化し、アジアンマーケットでの堅調な売上に加えてメインストリーム市場への取り組みを始めております。

このような状況下、売上高は3,538百万円（前年同期比16.1%増）、セグメント利益は517百万円（前年同期比51.1%増）を計上し、上半期として過去最高の売上高及びセグメント利益を達成するなど、極めて堅調な成長基調を維持しました。

（２）当中間期の財政状態の概況

総資産は、前連結会計年度末に比べ1,280百万円増加し、48,644百万円となりました。主な要因は、有形固定資産その他に含まれる建設仮勘定の減少（828百万円）の一方、原材料及び貯蔵品の増加（1,172百万円）及び現金及び預金の増加（1,019百万円）によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ990百万円増加し、26,728百万円となりました。主な要因は、短期借入金の減少（1,200百万円）の一方、買掛金の増加（2,054百万円）によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ289百万円増加し、21,916百万円となりました。主な要因は、非支配株主持分の減少（36百万円）の一方、利益剰余金の増加（324百万円）によるものであります。なお、自己資本比率は44.4％となりました。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2026年５月13日に公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

２．中間連結財務諸表及び主な注記

（１）中間連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （2026年３月31日）	当中間連結会計期間 （2026年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,355	5,375
受取手形及び売掛金	9,796	9,795
商品及び製品	2,330	2,264
仕掛品	39	34
原材料及び貯蔵品	1,200	2,373
その他	1,805	785
貸倒引当金	△6	△6
流動資産合計	19,521	20,622
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	13,265	13,248
機械装置及び運搬具（純額）	8,311	9,039
土地	2,787	2,766
その他（純額）	1,109	252
有形固定資産合計	25,473	25,307
無形固定資産		
その他	254	248
無形固定資産合計	254	248
投資その他の資産		
その他	2,113	2,465
投資その他の資産合計	2,113	2,465
固定資産合計	27,841	28,021
資産合計	47,363	48,644
負債の部		
流動負債		
買掛金	4,344	6,398
短期借入金	1,200	－
未払金	1,886	2,365
返金負債	2,835	2,908
未払法人税等	406	553
賞与引当金	469	364
役員賞与引当金	－	11
その他	1,716	1,777
流動負債合計	12,858	14,379
固定負債		
長期借入金	7,853	7,324
退職給付に係る負債	1,829	1,881
その他	3,195	3,143
固定負債合計	12,878	12,348
負債合計	25,737	26,728

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （2026年３月31日）	当中間連結会計期間 （2026年９月30日）
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,269	2,269
資本剰余金	2,153	2,153
利益剰余金	16,529	16,854
自己株式	△4	△4
株主資本合計	20,949	21,274
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7	5
為替換算調整勘定	276	282
退職給付に係る調整累計額	56	54
その他の包括利益累計額合計	341	342
非支配株主持分	335	299
純資産合計	21,626	21,916
負債純資産合計	47,363	48,644

（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

（中間連結損益計算書）

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
売上高	29,962	31,244
売上原価	20,897	21,811
売上総利益	9,064	9,433
販売費及び一般管理費	7,616	7,734
営業利益	1,447	1,698
営業外収益		
受取利息	10	10
受取配当金	11	11
投資有価証券売却益	4	－
その他	11	12
営業外収益合計	36	35
営業外費用		
支払利息	28	76
為替差損	1	23
持分法による投資損失	2	0
その他	24	11
営業外費用合計	57	111
経常利益	1,426	1,622
特別利益		
補助金収入	－	500
特別利益合計	－	500
特別損失		
固定資産圧縮損	－	500
棚卸資産廃棄損	209	－
災害による損失	－	114
特別損失合計	209	614
税金等調整前中間純利益	1,217	1,508
法人税等	381	488
中間純利益	836	1,019
非支配株主に帰属する中間純利益	112	108
親会社株主に帰属する中間純利益	724	911

（中間連結包括利益計算書）

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
中間純利益	836	1,019
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△0	△1
為替換算調整勘定	30	△0
退職給付に係る調整額	8	△1
持分法適用会社に対する持分相当額	△14	4
その他の包括利益合計	24	0
中間包括利益	860	1,020
（内訳）		
親会社株主に係る中間包括利益	714	913
非支配株主に係る中間包括利益	146	107

（３）中間連結財務諸表に関する注記事項

（中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記）

（税金費用の計算）

税金費用については、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

１．報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会等が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、スナック菓子の製造販売を中心に事業活動を展開し、「国内」、「海外」の２つを報告セグメントとしております。

「国内」は当社が、「海外」においては在外連結子会社が、それぞれ独立した経営単位で事業活動を展開しております。

２．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

前中間連結会計期間（自　2025年４月１日　至　2025年９月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント			調整額（注）１	中間連結損益計算書計上額（注）２
	国内	海外	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	26,914	3,048	29,962	－	29,962
その他の収益	－	－	－	－	－
外部顧客への売上高	26,914	3,048	29,962	－	29,962
セグメント間の内部売上高又は振替高	239	228	467	△467	－
計	27,154	3,276	30,430	△467	29,962
セグメント利益	1,313	342	1,655	△207	1,447

（注）１．セグメント利益の調整額△207百万円はセグメント間取引消去であります。

２．セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当中間連結会計期間（自　2026年４月１日　至　2026年９月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント			調整額（注）１	中間連結損益計算書計上額（注）２
	国内	海外	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	27,706	3,538	31,244	－	31,244
その他の収益	－	－	－	－	－
外部顧客への売上高	27,706	3,538	31,244	－	31,244
セグメント間の内部売上高又は振替高	185	388	574	△574	－
計	27,891	3,927	31,818	△574	31,244
セグメント利益	1,332	517	1,849	△151	1,698

（注）１．セグメント利益の調整額△151百万円はセグメント間取引消去であります。
２．セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）
該当事項はありません。

（継続企業の前提に関する注記）
該当事項はありません。